

平成 28 年度

全国学力・学習状況調査の 結果について



海老名市立有馬小学校

全国学力・学習状況調査について	P. 1
「国語に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 2
「算数に関する調査結果」と「今後の具体的な取組」	P. 3
「児童質問紙の結果より」と「今後の具体的な取組」	P. 4
ご家庭で取り組んでいただきたいこと	P. 5



資料

学習・生活習慣と学力との関係

文部科学省が全国の児童生徒の調査結果を分析したところ、次のようなことがわかりました。
海老名市全体の分析でもまったく同じ結果が出ています。

次のような児童生徒ほど、教科の平均正答率が高い傾向にあります。
(教科に関する調査、児童・生徒質問紙調査より)

【教科への関心・意欲・態度】

- ・国語、算数・数学に対する関心・意欲・態度が高い

【学 校 生 活】

- ・学級みんなで協力して何かをやり遂げうれしかったことがある
- ・先生は、自分のよいところを認めてくれていると思う

【基本的生活習慣】

- ・朝食を毎日食べる
- ・毎日、同じくらいの時刻に寝る

【社会に対する興味・関心】

- ・地域や社会で起きている問題や出来事に関心がある
- ・新聞を読んでいる
- ・テレビのニュース番組やインターネットのニュースを見る事に関心がある

【家庭学習・読書】

- ・学校の授業時間以外での学習時間が長い
- ・自分で計画を立てて学習をする
- ・学校の宿題、授業の予習・復習をする
- ・読書が好き、読書時間が長い、学校や地域の図書館に行く頻度が多い

【家庭でのコミュニケーション】

- ・家の人と学校での出来事について話をする
- ・家の方は、授業参観や運動会などの学校行事に来る

【自尊感情・規範意識】

- ・ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある
- ・学校のきまり、規則を守っている
- ・人の気持ちが分かる人間になりたいと思う

【基本的生活習慣】

- ・携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が短い

全国学力・学習状況調査について

全国学力・学習状況調査は、平成 19 年度に始まった全国一斉の調査です。平成 22～24 年度は抽出調査（平成 23 年度は震災の関係で実施を中止）でしたが平成 25 年度から再び、全国すべての小中学校が対象となりました。

◆ 調査の目的

- (1) 児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

◆ 調査の対象

国・公・私立学校の以下の学年、原則として全児童生徒

- ・ 小学校第 6 学年
- ・ 中学校第 3 学年

◆ 調査内容

- (1) 教科に関する調査

【小学校】

国語 A・算数 A （主として「知識」に関する問題）
国語 B・算数 B （主として「活用」に関する問題）

【中学校】

国語 A・数学 A （主として「知識」に関する問題）
国語 B・数学 B （主として「活用」に関する問題）

「主として『知識』に関する問題」とは？

これからの学習や生活をしていく上で、確実に身につけておかなければならない基礎的な力を調査する問題

「主として『活用』に関する問題」とは？

身につけた基礎的な力を生かして様々な問題を解決したり、工夫して生活したりする力を調査する問題

- (2) 児童生徒に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問

- (3) 学校に対する質問紙調査

指導方法や取組、人的・物的な教育条件の整備の状況等

◆ 調査実施日

平成 28 年 4 月 19 日（火）



国語に関する調査結果

国語 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書くことについては、正答率が高いです。日ごろの漢字学習や新出漢字に関連する多くの言葉や文に毎日ふれていることが、要因の一つと考えられます。
- ルール説明の表現について助言した内容として適切なものを選択する問題では、無回答がなく、比較的正答率も高いです。
- 毛筆で書いた字を書き直した際、注意点として適切なものを選択する問題については、正答率が高いです。用紙全体との関係に注意し、文字の大きさや配列の違いなどによく気付いています。

《努力を要する所》

- 情報を正確に収集することに課題があります。その情報を関連づけながら話し合う力も不十分で、努力を必要としています。
- 物語の登場人物の相互関係を捉える力が不十分で、努力を必要としています。

国語 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 話すこと・聞くことの領域で、目的に応じて質問したいことを整理することはできています。
- 目的や意図に応じて、グラフをもとに自分の考えを書くことは、比較的正答率が高いです。

《努力を要する所》

- 設問が長く複雑な場合、正答率が低いです。問われている内容を的確に読み取ることに課題があります。
- 読むことの領域は、選択式の設問であっても、無回答が多く正答率も低いです。特に目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ自分の考えを明確にしながら読み、それを文章に書くという設問になると、正答率は極めて低かったです。

これまでの取組から

- 朝自習の時間に「読書タイム」を毎週1～2回設定して、読書の習慣が身につくようにし、語彙が増えるようにしています。

今後の具体的な取組について

- 日頃の授業で自分の考えを友達と伝え合う場を意図的に設定するように努めています。
- 国語以外の教科においても、言語活動を充実させるように努めています。
- 問われている内容を読み取る力を育てるため、読書の機会や量を増やします。
- 字形に気がつけた、ていねいな漢字指導を継続して行っていきます。



算数に関する調査結果

算 数 A

(主として「知識」に関する問題)

《優れている所》

- 不等号をよく理解し、二つの数の大小を表す記号を書くことができます。
- 三角形の底辺と高さの関係について理解しています。
- 全体の大きさに対する部分の大きさを表す割合の意味について理解しています。
- 単位量あたりの大きさを求めるために立式することができます。

《努力を要する所》

- 除法の性質を理解して計算することが苦手です。
- 小数を含んだ数の大小関係をよく理解していません。

算 数 B

(主として「活用」に関する問題)

《優れている所》

- 示された条件をもとにしたり、式を活用したりして数値を求めることができます。
- 単位量あたりの大きさを求めるために、必要な情報を特定することができます。

《努力を要する所》

- グラフを読み取ることに課題があります。
- 問題が複雑になると、正答率が下がったり無解答が増えたりします。

これまでの取組から

- 学年や単元によって、TT（チームティーチング）や、少人数指導を行い、個々の学力に合わせて理解が進むようにしています。

今後の具体的な取組について

- 授業の中で、表やグラフに示された情報を読み取って問題を解く学習を増やします。
- 基本的な計算を繰り返し正しく解くことによって自信を持たせ、複雑な問題にも意欲を持って取り組めるようにします。
- 文章問題の文意が理解できるように、他教科の学習や読書活動なども通して、文章を理解する力や文章を書く力を培っていきます。



児童質問紙の結果より

学習について

数値は、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」の回答率を足したものです。

《よかった所》

学習習慣

学習意欲・関心が高い

- 「学校で、好きな授業がある」 ・ 100%
- 「宿題をしている」 ・ 100%
- 「勉強は大切だと思う」
・ 国語 92% 算数 89%
- 「学習したことは、将来役に立つと思う」
・ 国語 92% 算数 86%
- 「国語の授業で、自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書く」
・ 78%
- 「算数の授業で新しい問題に出合った時、それを解いてみたいと思う」 ・ 81%
- 「算数の問題の解き方が分からない時は、諦めずにいろいろな方法を考える」 ・ 87%
- 「算数の問題の解き方や考え方がわかるようにノートに書いている」 ・ 84%
- 「読書が好き」 ・ 83%
- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に
関心がある」 ・ 83%

《課題と思われる所》

- 「自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりすることは難しく感じる。」 ・ 51%
- 「原稿用紙に2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しく感じる。」 ・ 66%
文章を書くことが苦手
- 「解答を書く問題について最後まで努力した」 ・ 国語 62% 算数 62%
- 「家で勉強をする」 家庭学習の方法に課題
・ 計画を立てて行 55%
・ 学習時間が1時間未満 59%

生活について

《よかった所》

生活習慣

基本的な生活習慣が確立されている

- 「朝食を毎日食べている」 ・ 98%
- 「毎日同じ時刻に起きている」 ・ 92%
- 「学校へ行くのは楽しい」 ・ 92%

自分自身について

自己肯定感が高い

- 「自分にはよいところがあると思う」 ・ 86%

規範意識・人との関わり

規範意識が高く、人との関わりを大切にしている

- 「学校のきまりを守る」 ・ 97%
- 「いじめはどんな理由があってもいけない」
・ 98%
- 「人の役に立つ人間になりたい」 ・ 94%
- 「友達の話や意見を最後まで聞く」 ・ 97%

家庭

- 「家の人と学校での出来事について、話をする」
・ 94% 家庭は、学校生活に関心を持って対話をしている。

地域・社会

- 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」 ・ 83%
- 「テレビやインターネットのニュースを見る」
・ 94% 社会のできごとに関心が高い

《課題と思われる所》

- 「1日あたりのテレビ視聴時間」
・ 4時間以上 23% ・ 3～4時間 17%
テレビやビデオの視聴時間が長い

これまでの取組から

- 学校教育目標に則り、教職員相互の信頼と協力を基盤とし、全職員で気持ちを一つにして教育実践に努めています。
- 家庭や地域との連携・協力を大切に考え、ともに子どもたちを育てていく学校づくりに努めています。

今後の具体的な取組について

- 児童の豊かな心を育み、楽しく笑顔で学校生活が送れるよう、今後も学校全体で取り組みます。「全職員が全担任」という意識を継続していきます。心の教育、小中一貫教育、支援教育、ありまっ子応援団との連携・協力、家庭との連携・協力、地域環境の活用、異学年交流や他校種との交流等を推進します。
- 校内研究による授業研究を全職員で取り組み、授業改善につなげます。基礎的内容の定着を図るとともに指導法を工夫・改善して確かな学力の向上をめざします。
- 地域の教育力を生かした体験学習により児童の生きる力を培います。

ご家庭で取り組んでいただきたいこと

平成28年度全国学力・学習状況調査の結果の分析より、「ご家庭で取り組んでいただきたい6つの項目」をまとめました。できることから、ぜひ、始めてみてください。

1 「早寝、早起き、朝ごはん」を続けていきましょう。

基本的な生活習慣を身につけることは、学習面に良い影響を与えます。今後も、「早寝、早起き、朝ごはん」を続けていきましょう。



2 テレビの時間を減らしましょう。

お子さんとよく話し合い、テレビを見る時間や約束を決めるなどして、時間を有効に使いましょう。また、日常生活の中で本を読むひと時を作ることで、文字に親しみ、思考力や想像力を伸ばしていきましょう。



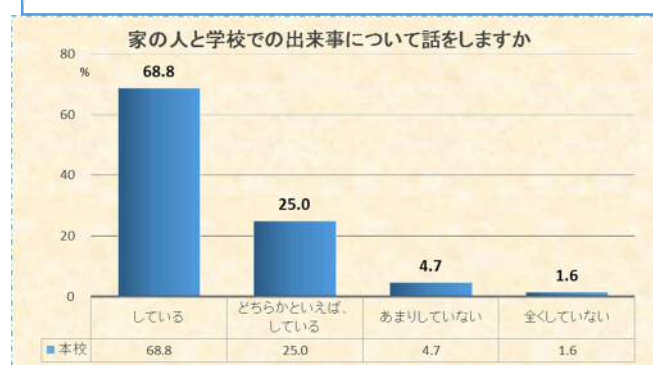
3 家庭学習を継続し、さらに内容の充実した学習を積み重ねていきましょう。

学習内容の定着を図るためには、家庭における学習も必要です。基礎基本の力を身につけていけるように粘り強く取り組むための見守りや励ましを今後も続けていきましょう。



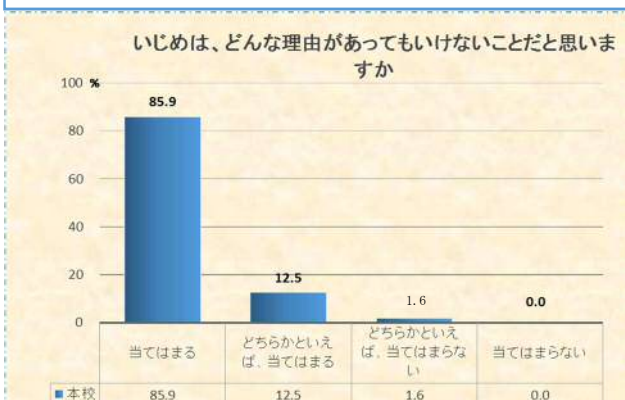
4 豊かな言葉や対話を大切にしましょう。

普段の生活の中で、お子さんとゆっくりと向き合い話ができるひと時をもちたいものです。学校であったことなど、耳を傾けてあげてください。豊かな言葉と温かい心を育みます。家庭における対話を大切にいきましょう。



5 いじめは許されないという意識をさらに高めていきましょう。

どんな理由があってもいじめは絶対に許されないことや、その理由・困った時の適切な対処法などについて、ご家庭でも日頃から話し合っておきましょう。



6 ケータイ・スマホを使う上でのマナー・約束事等について、日頃から話し合っておきましょう。

子ども任せにしていると、メールやSNS等によって、気付かぬうちに思わぬトラブルに巻き込まれていたり、トラブルを振りまいてしまっていたりすることがあります。お子さんと一緒に使用する目的や制限事項などを考えて、適切に使えるように見守っていきましょう。





平成 28 年 11 月